

音読を重視して読む力をつける指導の工夫  
 —— 2年教材「お手紙」の指導を通して ——

目 次

I	テーマ設定の理由	73
II	研究の全体構造図	74
III	研究内容	75
1	音読・朗読についての基本的な考え方	75
(1)	読みとは	75
(2)	読みの技能	75
(3)	音読・朗読指導の効果	75
2	音読・朗読の学年別指導系統	76
3	音読を重視した年間指導計画作成に当たって	77
(1)	第二学年で習得しなければならない能力	77
(2)	音読を重視した教材一覧表	77
4	実践に当たって	78
(1)	音読・朗読の基礎技能	78
(2)	楽しい授業にするための工夫	80
(3)	実際の授業での音読のあり方	81
(4)	音読を重視した指導過程	82
IV	指導の実際	83
1	単元名	83
2	単元設定の理由	83
3	単元の目標	84
4	二学年の音読の目標・指導事項及び指導上の留意点	85
5	単元の観点別達成目標	85
6	教材名	86
7	教材について	86
8	教材研究	86
9	指導計画	88
10	本時	89
11	授業の反省	90
V	資料	91
VI	まとめと今後の課題	94
	参考文献	94

## 音読を重視して読む力をつける指導の工夫 —— 2年教材「お手紙」の指導を通して ——

宜野湾市立志真志小学校教諭 天久敏子

### I テーマ設定の理由

近年における高度な科学技術の進歩と、経済の発展は物質万能の風潮を増長すると共に、更なる情報化、価値観の多様化など急激な変化をもたらしている。

そのような社会の変化に主体的に対応できる心豊かな人間の育成を図ることをねらいとして、学習指導要領の改訂が行なわれた。今回の国語科の改訂のポイントとして、「情報化社会に対応するための言語能力の育成」ということが強く打ち出されている。確かな国語力をつけるために言語の教育を一層重視しているのである。

言葉を通して考え、創造し、表現していくということは、全ての学習の基礎である。特に低学年では、学びは国語からといわれるように、言葉を通して全てを学んでいく。子供たちが生き生きと主体的に学習していくためには、「言語の教育」の手段としての音読指導を重視する必要があると考える。

しかし、私自身を含めてこれまでの国語科指導方法を振り返ってみると、教材文の主題追求、内容分析などには時間をかけて指導してきたが、音読指導については必ずしも十分であったとはいえない。このような反省にたって子供たちをみみると、あらためて次のような弱点が浮き上がってくる。

- ・声ははっきりしない
- ・気持ちをこめて読むことができない
- ・必要以上に声をはりあげる
- ・教材文が十分に読めないため、発表に自信がない
- ・すらすら読めない
- ・国語の勉強に積極的に取り組む子が少ない

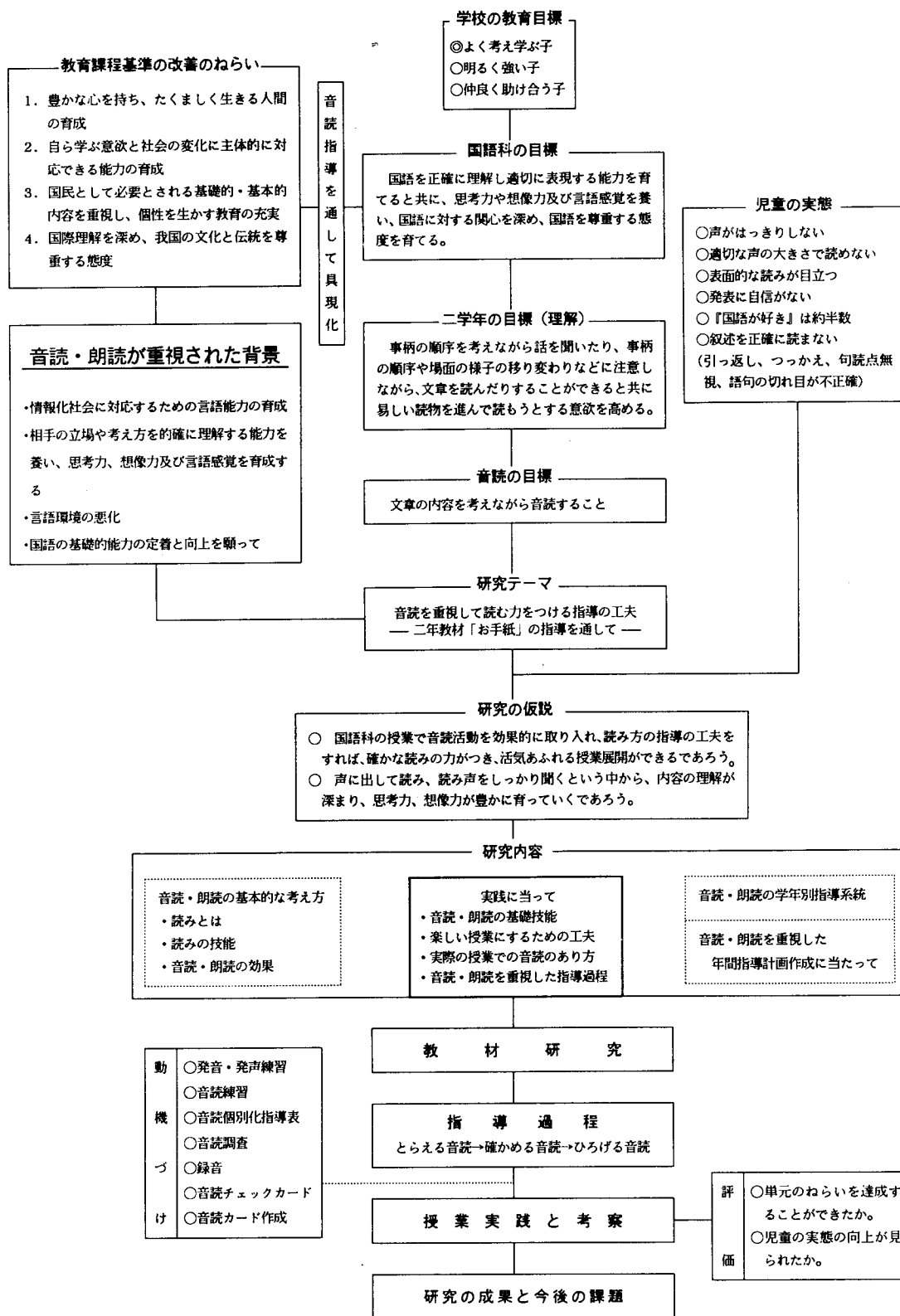
等である。このような現状を踏まえ、改善策を模索するうちに、音読指導の必然性を痛感した。

そこで、

- 国語科の授業で音読活動を効果的に取入れ、読み方の指導の工夫をすれば確かな読みの力がつき、活気溢れる授業展開ができるであろう。
- 声に出して読み、読み声をしっかり聞くという中から、内容の理解が深まり、思考力・想像力が豊かに育っていくであろう。

の仮説をもとに全ての児童に声を出すことの楽しさや喜び、言葉のもつリズムの美しさを体験させることで読む力が増し、理解を深めることが出来るのではないだろうかと期待し、本テーマを設定した。

## II 研究全体構造図



### Ⅲ 研究内容

#### 1 音読・朗読についての基本的な考え方

##### (1) 読みとは

「読む」という学習は、国語科学習における最も基本的な活動であり、能力である。

「読み取る力」というのもまずは、「読む」ことから始まるのではないだろうか。書かれている内容が読み取れなければ無意味である。「読み取る力」をつけるためには、その前提の「読む力」をまず付けることが出発点であると考ええる。

文章を読むということは、まず書かれた文字を「言葉」として感知することから始まる。言葉を通して考えること、想像すること、推理すること、問題を解決すること、判断すること、評価すること等を含めた行為につながる。つまり読みの活動は、確かな理解力に支えられ、究極においては表現力に集約され、音声言語及び文字言語で正確に豊かに表現する能力を習得するのである。

##### (2) 読みの技能

読みの技能には、①黙読、②音読・朗読がある。黙読とは、文字通り黙って目で読むことである。音読とは、文字に書かれたものを音声化して読むことであり、目と耳と口を用いて読む方法である。朗読は、広義の音読に含まれ「他人に伝えるための読み」を更に高度化したものである。すなわち、十分に理解、鑑賞した上で内容を読み味わいつつ、他人にもそれを聞いて鑑賞できるように伝えるための読みである。音読を通して、作品の内容などを感情豊かに表現しようとする読みとも言える。

読みの技能は、音読⇒微音読⇒唇読⇒黙読・朗読となるのが一般的傾向であるが指導過程の中で、場に応じた読みが適切に用いられるべきである。

##### (3) 音読・朗読指導の効果

- ① これまで単なる活字の行列でしかなかった文章に音声を吹き込むと、その世界が生き生きとよみがえり、内容理解が容易になる。
- ② みんなで声を出し合って学習するので教室が活気づき、学習が楽しくなる。また、一人残らず学習に参加するようになり、文字通り学習が一人一人のものになる。
- ③ 教科書の文字を正しく音声化することで、言葉のきまりや、豊かな言語感覚などが自然に身に付くようになる。
- ④ 普段の授業の中でだれでも手軽に取り入れることができる。
- ⑤ 音読・朗読の力がついてくると、子どもたちは、話し言葉や書き言葉にも気をつける。
- ⑥ 作文の推敲をする場合でも音読の効果はてき面である。例えば言葉のだぶり、主述の不照応、舌足らずの文など、声に出して読む中に「変だ！」とまちがいを発見するようになる。点、まる、かぎなどの諸符号の使い方も視覚によるよりは音声化する中で気づくことが多い。
- ⑦ 音声化する読みは、評価がしやすい。子どもの音読のしかたで、その理解の度合いを知ることができる。言葉の正しい読み方だけでなく、文章の理解、感じ取り方、考え方などが子どもの音読に表われるからである。

## 2 音読・朗読の学年別指導系統

学習指導要領では、理解を確かにするものとしての「音読」を第一学年～第四学年に位置づけ、理解の過程や結果を表現するものとしての「朗読」は第五・六年に位置づけられている。

指導の重点	一 年	二 年	三 年	四 年	五 年	六 年
活動	語や文としてのまとまりを考えながら音読すること。	文章内容を考えながら音読すること。	文章の内容が表されるように工夫して音読すること。	事柄の意味・場面の様子、人物の気持ちの変化などが聞き手によく伝わるように音読すること。	聞き手にも内容が分かるように朗読すること。	聞き手にも内容がよく味わえるように朗読すること。
言語事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しく発音するため、発声練習をする。</li> <li>口形、姿勢に気をつけ、はっきりした発音で読む。</li> <li>拗音、促音などを正しく読む。</li> <li>必要に応じた声の大きさで読む。</li> <li>句読点、かぎかっこに注意して読む。</li> <li>特別なふしや読みぐせをつけないで読む。</li> <li>簡単な音読記号をつけて読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発音や抑揚に気をつけて読む。</li> <li>内容が分かるような速さで読む。</li> <li>句読点の息継ぎに注意して読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発音、抑揚、リズムの練習をする。</li> <li>発音やなまりのくせに気づき、直すようにする。</li> <li>調子、リズム、抑揚に気をつけて読む。</li> <li>内容にあった速さを考えて読む。</li> <li>句読点の意味を考慮して読む。</li> <li>癖のない正しい発音で読む。</li> <li>音読記号をつけて読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉の区切りを考慮して読む。</li> <li>歯切れのよい発音や抑揚で読む。</li> <li>色々な符号に気をつけて読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発音のしくみについて理解する。</li> <li>相手に分かるように正しい発音で読む。</li> <li>音読の記号を工夫して、それによって読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい発音、抑揚、適切な声量、速さ、リズム等を考慮して読む。</li> <li>正しく美しい発音で読む。</li> </ul>
理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>読みちがいのないように正確に読む。</li> <li>拾い読みをしないで語や文として読む。</li> <li>主述の関係を読みとるために読む。</li> <li>内容を考えながら読む。</li> <li>会話を工夫して読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を正しく区切って読む。</li> <li>文章の筋が分かるように読む。</li> <li>地の文、会話文を工夫して読み分ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誤読、繰り返し等がないように正確に読む。</li> <li>間の取り方を工夫して読む。</li> <li>声の強弱、高低を工夫して読む。</li> <li>主述の照応をとらえて読む。</li> <li>書かれている内容を考えながらすらすらと読む。</li> <li>ことごらの要点が分かるように読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誤読、繰り返し、飛ばし読み等がないように正確に読む。</li> <li>内容に合った間を工夫して読む。</li> <li>強調部分などを工夫して読む。</li> <li>主述の照応をとらえ、文の意味のまとまりとして読む。</li> <li>段落と段落の関係がわかるよう工夫して読む。</li> <li>情景や人物の心情がよく表れている語句に注意して読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>付け足し読み、取換え読みなどのないように正確に読む。</li> <li>要点、要旨、主題が現れているところは特に強調して読む。</li> <li>段落相互の関係や文章全体の構造を考慮して読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>細かい表現にも注意して読む。</li> <li>文章の種類によって読み方を工夫する。</li> <li>文章の構造や考え、切れ目や間を適切にして読む。</li> </ul>
表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手に聞き取れるように注意して読む。</li> <li>動作を加えて読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地の文、会話文を工夫して読み、様子が表われるように読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章のすじが相手によく分かるように読む。</li> <li>読みとったことを自分で味わいながら読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手が情景や心情をえがけるように工夫して読む。</li> <li>読みとったことを自分で味わい、人にも聞かせるために読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すぐれた表現を内容と結びつけながら読む。</li> <li>描写のすぐれている部分を相手が味わえるように読む。</li> <li>説明文や物語文を読み分ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな文章を自分で理解し、それを相手に伝えるために読む。</li> <li>作品を味わいながら、感動が伝わるように読む。</li> </ul>
関心・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>おもしろいところや好きなところを見つけて読む。</li> <li>人が読んでいるとき、最後まで聞く。</li> <li>ことば一つ一つを正しくていねいに読む。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>人がまちがって読んで笑ったりしない。</li> <li>人の読み方を聞いて共鳴したり指摘したりする。</li> <li>すきな文章を朗読したり暗唱したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活上のさまざまな文章を正確に読む。</li> <li>自分の読み方や人の読み方について関心を持ち、よりよい読み方を工夫していく。</li> <li>優れた詩や文章に関心を持ち、それを読んで楽しむ。</li> </ul>		

### 3 音読を重視した年間指導計画作成に当たって

#### (1) 第二学年で習得しなければならない能力

(理解の目標)

事柄の順序を考えながら話を聞いたり、事柄の順序や場面の様子の移り変わりなどに注意しながら文章を読んだりすることができるようにすると共に、易しい読み物を進んで読もうとする態度を育てる。

### 音読の目標

#### 文章の内容を考えながら音読する

「文章の内容を考えながら音読させる」ということは、文章の叙述に即して読み、文中の主語と述語の関係及び修飾と被修飾の関係に注意したり、文と文の続き方や指示語や接続語などに目を向けて音読するということである。そのために、5W1Hをしっかりおさえて地の文と会話文を読み分け、様子が分かるように工夫してゆっくり読ませるようにする。句読点の間の取り方は言うまでもないことであるが、その他の場所でも必要に応じて区切って読めるようにさせたい。

#### (2) 音読を重視した教材一覧表 (物語文・詩を中心に)

年間の学習指導計画作成の参考として、理解単元を中心に、単元の目標・指導の重点などを一覧表にまとめた。

(2学年)

月	教材	時数	単元の目標	指導の重点
4	ふきのとう	15	・様子や気持ちを考えながら音読し、春を待つ心を読み取ることができる。	・ふきのとうや竹やぶが春を待つ様子がわかるように読む。 ・区切りをつけて、ゆっくり読む。 ・会話文に気を付けて読む。 ・様子を表わす言葉を工夫して読む。
5	(詩) くまさん おなかのへるうた	7	・人物の気持ちや様子を想像しながら音読し、詩の楽しさを味わうことができる。	・二つの詩を読んで好きな点を見つける。 ・情景や気持ちを想像しながら詳しく読む。 ・好きな詩を視写し、暗唱する。
6	スイミー	15	・場面の様子や人物の気持ちを想像しながら読み、自分なりの感想を持ち、様子や気持ちが表われるように音読できる。	・海の中の様子や人物の人柄を思い浮かべながら読む。 ・名詞止めや倒置法などに気をつけて歯切れよく読む。
7	王様出かけ ましょう	15	・人物の人柄や気持ちの変化について考えながら読み、作品のおもしろさに気づく。	・場面の様子や人物の人柄を思い浮かべながら読む。 ・様子を表わす言葉や「」のところを工夫して読む。 ・会話文に気を付けて読む。
9	えいっ	16	・くまのとうさんとくまの子の気持ちや、場面の様子を会話などに注意して読み取り、作品のおもしろさがわかる。	・くまの親子の気持ちが表われる音読の工夫をする。 ・様子を表わす言葉や「」のところを工夫して読む。 ・会話と動きを表現しながら読む。
10	お手紙	18	・場面の移り変わりを考えながら読み、場面の様子や人物の気持ちをとらえることができる。	・二人の表情を思い浮かべながら読む。 ・「」に気を付けて、二人の仲のよさがわかるように工夫して読む。
1	力太郎	15	・力太郎がばけものをやっつける場面を想像することができる。	・民話の語り口を生かして、人に語りかけるように読む。 ・速く読むところ、ゆっくり読むところを工夫して読む。 ・擬態語や擬声語を工夫して読む。 ・地の文、会話文などによって言葉の響きやリズムを考えて読む。
3	スーホの白い馬	23	・場面の移り変わりや様子、登場人物の人柄そのときどきの気持ちなどを想像しながら読むことができる。	・場面の様子や気持ちを思い浮かべながら読む。 ・声の大きさや読みぶりを工夫して人柄がわかるように読む。 ・「」、「。」に気を付けて読む。

## 4 実践に当たって

### (1) 音読・朗読の基礎技能

国語教室では、音読・朗読の技術は、主題追求、語彙指導などの影にかくされてとかく軽視されがちである。しかし、基礎技能の修得は、5才～13才頃が一番受け入れやすい柔軟さを備えていると言われ、発音、アクセント、イントネーションなどは、年齢を加えれば加えるほど矯正がむずかしくなり、一生を左右すると言われている。したがってこの時期は、最も基礎的な事柄を修得するのに大事であり、また、受け入れやすい柔軟さを備えている時期でもある。

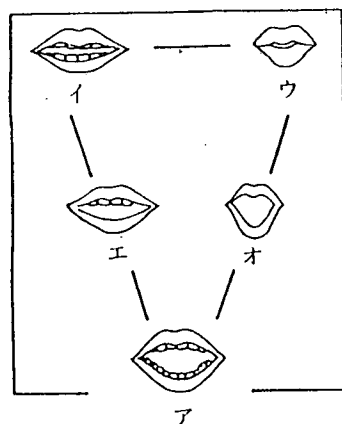
こうした視点でとらえた場合、美しく正しい日本語の伝達者として、技術の修得、推進は、教師の子どもへの義務であり、国語教育の根幹をなすものである。音読・朗読の基本技術を正しく習練するとともに、常に「意識して話す。」「意識して音読・朗読する。」ことの積み重ねがキーポイントである。

#### ① 音読の基礎（具体的な指導事項）

- ・姿勢を正しくする。
- ・正しい口形で、はっきり発音する。
- ・読み違いせず書いてある通り正しく読む。  
(付け足し読み、とばし読み、逆さ読み、繰り返し読み、我流読みに気をつける)
- ・句読点に気をつけて読む。
- ・読みぐせが出ないようにする。
- ・内容に応じて、ゆっくり、なみ口、など速さを考えて読む。
- ・自然な口調で話すように読む。
- ・アクセント・抑揚・間の取り方を工夫して読む。
- ・場面の様子や、人物の気持ちの変化などを理解して読む。

#### ② 発音・発声練習

音読が正しく、すらすらできるために遊びの要素を取り入れた発音・発声練習が効果的である。



#### ア 母音三角形

- ・ 日本語のもとになる発音の仕方をしっかり練習させる。母音は、口の開き形や舌の位置によって、それぞれ違った音になる。
- ・ 母音三角形の図を教室に常時掲示して口形練習し、正しくはっきりした発音ができるようにする。
  - ・ アーオーウ ——— だんだん口を平たく
  - ・ イーウ ——— 口を小開きに
  - ・ エーオ ——— 中間ぐらいの開き方で

③ 口の体操・早口ことば・ことばの遊び

発音を正しくするために、五十音読図によって、母音・子音の一音一音を正しく練習することは大切だが、子供たちに興味のない学習になりがちである。そのため、口の体操、早口ことば、ことばの遊びなどを取り入れて、変化を持たせるようにする。

(以下、日常の実践からいくつかの例を上げて記載する。)

五十音の発音練習 (口の体操)

- ・アエイウエオアオ
- ・カケキクケコカコ
- ・サセシスセソサソ
- ・タテチツテトタト
- ・ナネニヌネノナノ
- ・ハヘヒフヘホハホ
- ・マメミムメモマモ
- ・ヤエイユエヨヤヨ
- ・ラレリルレロラロ
- ・ワイウエヲワヲ

濁音・半濁音・拗音の発声練習

- ・ガゲキグゲゴガゴ
- ・ザゼジズゼゾザソ
- ・ダデヂヅデドダド
- ・バベビブベボバボ
- ・パペヒブペポパポ
- ・キャケキキュケキョキャキョ
- ・シャセシシュセシヨシャシヨ
- ・チャテチチュテチョチャチョ
- ・ニャネニニュネニョニャニョ
- ・ヒャヘヒヒュヘヒョヒャヒョ

早口ことば (一語一語正確に)

- ・いきをきらして駅へかけつけた。
- ・潮のひいたひろい干潟で貝ひろい
- ・らくだの体どろだらけの体
- ・むこうの竹垣に竹たてかけた。
- ・生麦、生米、生たまご。
- ・となりの客はよくかき食う客だ。

いえるかな

おてらのこぼうず  
 おきょうをよんだ  
 なむ まむ なむ まむ  
 みゃ み みゅ め みよ  
 なむ まむ なむ まむ  
 みゃ み みゅ め みよ

ことば集め

- ・あのつくことば ( )
- ・いのつくことば ( )
- ・うのつくことば ( )
- ・えのつくことば ( )
- ・おのつくことば ( )

しりとり遊び

- ・あめ →
- ・いし →
- ・うさぎ →
- ・えんぴつ →
- ・おしべ →

ことば遊び

- ・はちとはちが はちあわせ
- ・からすが こえをからす
- ・ぼったとぼった ぼったりあった
- ・いるかは いるかい
- ・つるが つるっとすべった

舌の体操



ア



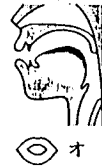
イ



ウ



エ



オ



正しい姿勢



(2) 楽しい授業にするための工夫

① さまざまな読みの形を取り入れる

「音読」といっても、そのさせ方は様々である。本時のねらいに即して「いつ・どこを・なんのために・だれに・どのように」読ませたらよいかを明確にし、読みの効果を高めるようにした。

	読みの効果	指導の留意点
自由音読	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のテンポで好きなように読める。</li> <li>自分で味わい、考えながら読める。</li> <li>常に音読の技術を個々につけることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人読みのできない子は、できるだけ教師がついて一通り読み通せるよう配慮する。</li> </ul>
一斉読み	<ul style="list-style-type: none"> <li>一斉に声を出すことは、うれしくて楽しいことであり開放感がある。</li> <li>みんなで力を合わせているような感じがする。</li> <li>気持ちを集中することができる。</li> <li>気の弱い子や、読む力の劣っている子が読みに参加できる。</li> <li>気持ちの高まりや、会話の部分など、特に読ませたいことが表現できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全文を通して一斉読みさせるのは意味がない。特に注意させたい表現を取り上げて、部分的に音読させることが効果的である。</li> <li>列・男女・グループなど読ませる集団を工夫すると楽しい読みになる。</li> </ul>
指名読み	<ul style="list-style-type: none"> <li>個の読みの能力をとらえることができる。</li> <li>読みの理解度が評価できる。</li> <li>読みの喜びを与えることができる。</li> <li>発音・アクセント・区切り方・読み誤りなどのつまずきをなおすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望する子だけを指名するのではなくて、読ませるめあてをはっきり持って、意図的・計画的に行なうようにする。</li> <li>導入時にあまり下手な子を読ませると、雰囲気は盛り上がらない。終末により読みを聞かせることは、余韻が残る。優れたもののみ指名しないことが大切である。</li> </ul>
役割読み	<ul style="list-style-type: none"> <li>イメージを描く読みができる。</li> <li>役柄に合うように読もうとする。</li> <li>聞き手にもそれぞれの読みが人物の心情をとらえているかどうかがわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的に読む部分を決めておき、読みの劣る子の出番もつくってあげるようにする。</li> <li>紙芝居・ペープサートなどを使って音読の工夫をさせる。</li> </ul>
群読	<ul style="list-style-type: none"> <li>各パートを一人で読んだり、数人または大勢で読んだりしてドラマチックに展開できる。</li> <li>授業の平板化を救うだけでなく、音読の不得意な子どもを引き入れて、言葉の響きの美しさに気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章をどのように分けるか考える。</li> <li>人物の話し言葉の読み手を決める。</li> <li>男声か女声かを内容を合わせて考える。</li> <li>情景描写などの抑揚のつけ方を考える。</li> </ul>
リレー読み	<ul style="list-style-type: none"> <li>文、場面ごとに順番に読んでいくもので文意識、段落意識を育てるのに役立つ。</li> <li>全員が文章全体の音読を完成させていくというおもしろさがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習する場合は、一人分の区切りを短めにする。</li> <li>リレー形式は、ともすれば読む速度が速くなりがちなので、ゆっくり読ませる。</li> </ul>
範読	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き手にあらかじめ留意点を指摘できる。</li> <li>興味や関心をそそらせる。</li> <li>読み手の模範を示すなどによって、子どもの音読が高まる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面の情景や、登場人物の心情を豊かに想像できる部分を聞かせることによって、読みは深まる。</li> </ul>

- ② 録音テープを活用する。
- 読み声を録音するだけで教室に楽しい緊張感が生まれるものであるが、これを学習に活用すると一層効果的である。(個人用の音読録音テープを持たせる。)
- 読み方の工夫に使う。
    - ・個人の読み声を録音し、繰り返しそれを聞いて読み方の工夫をする。
  - 評価に使う。
    - ・学習前の読み方と学習後の読み方を録音して比べ、よかった点や改善を要する点などについて評価する
- ③ 楽器などを使う。
- 文章にふさわしい音楽をバックに流したり、読みのテンポや区切りなどを助けるために打楽器を使ったりする。
  - 町の様子や、山の様子などの擬音レコード、とりの声や風の音などの擬音カセットも効果的である。
- ④ 読み手の位置に変化をつける。
- いつでも自分の席で読むだけでなく、会話の場合は二人向き合うとか、立つものと座るもの、円陣を作ったり一列になったり、文章内容に合わせた読み手の位置を工夫すると、場面が立体化しておもしろい。
- ⑤ 文章を書き写す。
- よく分かっている内容の文章は上手に読める。したがって、文章を書き写してから音読させると、つまづかずすらすら読め、人前でも自信を持って大きな声で読み通せるようになる。また、大きな声で読み通せたという経験から、読みの学習に進んで取り組むようになる。
- ⑥ 徹底的に訓練する。
- 繰り返し音読させることは、楽しい学習ではないかもしれない。子どもは、2～3回読めば、もうこれで大丈夫とすぐに安心してしまう。しかし、本当にゆるぎのない学力にするためには、一人一人の子どもが何回も繰り返し音読することが必要である。

(音読カードの利用)

### (3) 実際の授業での音読の在り方

- ① 指導計画の中に音読を位置づけ、評価の場面を設ける。
- 指導計画を大きく次の三段階に分ける。全文を通読し、文意を想定する。(とらえる)  
文章を詳しくとらえ、読み深める。(確かめる) 文章をまとめ、表現する。(広げる)この三段階に音読を生かして読み深めていくよう指導する。次に音読してみることによって、正確に読み取っているか評価したい。さらに、場面の様子をとらえ、人物の気持ちを表現しようとしているか評価したい。
- (音読、ワークシート)
- ② 一時間の授業の中でも、読む回数を増やす。
- 授業の最初と最後に読んで終わりではなく、何度も文章表現に戻って考える。正確に読み取るために音読したり、イメージをふくらませるために音読したりする。

③ 聞き手に対する意識を育てる工夫をする。

言葉というものは、音声に発して、人に正確に聞き取ってもらって、始めて、効力を発するものである。音読によって聞く力を育てたり、他の子の読み方の違いにも気付かせたりしたい。そして、真剣に音読する雰囲気育てたい。

(4) 音読を重視した指導過程

① 単元を通しての指導過程

過程	目  あ  て	学 習 活 動	音 読 の 位 置 づ け
と ら え る	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を理解するために正しく音読する。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>全文を読み、学習のめあてをつかむ。</li> <li>初めの感想を書く。</li> <li>分からない文字や語句を調べながら、文章のあらすじをとらえる。</li> <li>学習問題作り (場面ごとの読みのめあて)</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>叙述を正確にする音読 (範読、教材レコードやテープ)</li> <li>文意をとらえるための音読 (指名読み、微音読、黙読)</li> <li>考えさせるための音読 (指名読み、一人読み、リレー読み、黙読)</li> </ul>
確 か め る	<ul style="list-style-type: none"> <li>理解を深めるために工夫して音読する。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>前時の想起、本時の場面把握</li> <li>各自が課題について考えながら音読する。</li> <li>役割を分担し、読み方を工夫させ理解を深める。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確かめるための音読 (一人読み、指名読み、黙読)</li> <li>考えさせるための音読 (指名読み、一人読み)</li> <li>イメージを描かせる音読 (役割読み、リレー読み、群読)</li> </ul>
広 げ る	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容がよく分かるように音読する。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>音読発表会 理解したことを他人に伝えるために、気持ちをこめて音読する。</li> <li>他の作品を読み広げる。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現活動へつなぐ音読 (指名読み、役割読み、群読)</li> <li>一人読み、自由音読</li> </ul>

② 一単位時間の指導過程

過程	学 習 活 動	効果的な音読の位置づけ
と ら え る	<ol style="list-style-type: none"> <li>前時の学習を想起する。</li> <li>学習のめあてを確認する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指名読み</li> <li>一斉読み</li> </ul>
確 か め る	<ol style="list-style-type: none"> <li>めあてにそって読み深める。</li> <li>叙述にそって読み取ったことを話し合う。</li> <li>読み方の工夫をする。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指名読み、微音読、リレー読み、一人読み</li> <li>リレー読み、役割読み、群読</li> </ul>
広 げ る	<ol style="list-style-type: none"> <li>気持ちをこめて音読する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>役割読み、範読</li> </ul>

#### IV 指導の実際

### 国語科学習指導案

平成4年11月30日(月) 2校時

志真志小学校 2年5組 男19名 女16名

指導者 天久敏子

#### 1 単元名 気持ちを考えて読もう

#### 2 単元設定の理由

##### (1) 単元について

二年生の児童にとって、場面の移り変わりをとらえたり、場面の様子や気持ちを想像したりする能力を身に付けるのは、大切なことである。「王様出かけましょう」では、ストーリーのおもしろさから場面の移り変わりを、「スイミー」では、ファンタスティックな描写から場面の情景や人物の性格、心情を、「えいっ」では、父と子のほのぼのとした関係で繰り広げられる話のおもしろさをとらえてきた。

この単元では、人物のかかわり合いを通して、人物像や、心の触れ合いに迫るものである。そして、「力太郎」では、人物の生活環境や人間の営みを通して人物像により深くふれていくことになる。

この作品は、かえるくんとがまくんの心の触れ合いが、ほのぼのと伝わってくる物語であり、二人の登場人物がどこにでもいそうな身近な人物として親しみのもてる物語である。全体的に簡潔でわかりやすい文章である。がまくんとかえるくんの会話が中心に展開されており、その中に人物の気持ち、人柄が表われている。このような表現上の特色から音読をしっかりさせる必要があると考える。会話の中に込められている人物の気持ちを、音読によって確かめたり、気持ちが表われる音読を工夫させたりしながら、人物と人物のかかわり合いをしっかりとらえさせたい。そして読み深め、作品の世界にたっぷり浸らせる中で「友だちっていいものだな。」という気持ちを育てたいものである。

##### (2) 児童の実態

###### ① 音読調査より (調査人数35名 指導前)

ア 音読すると、お話や書いてあることがよくわかりますか。

はい(21名) いいえ(14名)

イ 音読が上手だと思いますか。

はい(16名) いいえ(8名) わからない(11名)

ウ 音読が好きですか。

はい(30名) いいえ(3名) わからない(2名)

○ いいえと答えた人の理由

・上手に読めない(3名)

・はずかしい(1名)

・声を出すのがいやだから(1名)

エ 音読するときどんなことに気をつけて読んでいますか。

- ・大きな声ではっきり読む。(23名)
- ・「、」や「。」に気をつけて読んでいる。(20名)
- ・「」はお話するように読んでいる。(8名)
- ・話のなかがわかるように読んでいる。(7名)
- ・正しい姿勢で読んでいる。(9名)

以上のような実態になっている。音読は好きで、ほとんどの児童がよく聞こえるような声の大きさを読んでいるが、音読が上手だと思っている児童は半数である。実際に飛ばし読み、引返し読み、語句の切れ目の不正確な読み、つかえ読み、句読点を意識しない読みなど叙述を正しく読んでいる児童は少ない。

### (3) 指導について

- ① 音読をしっかりさせる
  - ・全体的に簡潔で分かり易い文章である。がまくん、かえるくんの会話が中心に展開されていることから、音読を効果的に取り入れて、人物の気持ちや、場面の様子を想像させたい。
- ② 視写をきちんとさせる
  - ・各場面での中心的な文、会話は、できるだけ正確に視写させ、人物の気持ちを正確にとらえさせたい。
- ③ 挿絵を活用し、場面の理解を促す。
- ④ 発展読書への意欲を持たせる。
  - ・アーノルド＝ローベルの他の作品にも関心を持ち、楽しんで読もうとする意欲を持たせる。
- ⑤ 文、語句、語法に気をつけさせる
  - ・簡潔な文であるが、それだけ細部に気をつけて読み取らせたい。得に会話の語尾は、人物の気持ちを表わしているので気をつけさせたい。
- ⑥ 紙芝居を作り、発表会を持つことにより、自信を持って発表できるようにさせたい。

## 3 単元の目標

- ◎ 場面の様子をとらえながら読み、人物の気持ちの移り変わり、心の触れ合いをとらえることができる。(理解ウ、エ、カ)
  - 登場人物に教えてあげたいことを書いたり、好きなところを視写したりすることができる。(表現エ、キ)
  - 「 」の使い方を理解し、主述・被修飾の関係に注意して読み書きができる。(言語ウ<sup>(ウ)</sup>オ<sup>(ウ)</sup>)
- ◎ かえるくんとがまくんの間の温かい思いやりや心情、かたつむりくんの善意を読み取り、その温かい交流にふれることによって、豊かな心情を養う。

#### 4 二学年の音読の目標・指導事項及び指導上の留意点

文章の内容を考えながら音読すること（理解）



（指導事項）

- (1) 正しい発音、発声に気をつけて発音すること。
- (2) 正しい姿勢、正しい口形で読むこと。
- (3) 音量を考えて読むこと。
- (4) 句読点に気をつけてはっきり読むこと。
- (5) 話のすじがわかる速さで読むこと。
- (6) つっかえずに読むこと。

◎指導上の留意点

いつ、だれが、どこで、どうした等を考えながらその内容が声に表われるように読ませることが必要である。つまり、書かれている内容と結びつけて音読させることが大事である。また、分かち書きの指導とも関連させて正しく区切って読むこと。誤読、脱読、引返し読み等にも特に留意して指導したい。

#### 5 単元の観点別達成目標

観 点	目 標
関心 意欲 態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書く活動や音読の活動を通して、この作品の世界に浸らせ「友達っていいものだなあ」という気持ちを持たせる。</li> <li>・アーノルド＝ローベルの他の作品にも関心を持ち、楽しんで読もうとする意欲を持たせる。</li> </ul>
表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>エ. 見聞したこと、経験したことなどについて、順序を整理して文章を書くこと。</li> <li>キ. 正しく視写したり、聴写したりすること。</li> </ul>
理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウ. 文章の内容を考えながら音読すること。</li> <li>エ. 時間的な順序、場面の移り変わり、事項の順序などを考えながら、内容を読み取ること。</li> <li>カ. 人物の気持ちや、場面の様子を想像しながら読むこと。</li> </ul>
言語 事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウ<sup>㉞</sup>. (「 」)の使い方を理解し、文章の中で適切に使うこと。</li> <li>オ<sup>㉞</sup>. 文の中における主語、述語の関係、及び修飾と被修飾との関係に注意すること。</li> </ul>

6 教材名 お手紙 (光村二年・下)

7 教材について

「お手紙」は、二年になって二回目の翻訳教材で、「二人はともだち」の中の一つの話である。作者は、絵本作家のアーノルド＝ローベル。「一度も手紙をもらったことがない」と悲しむがまくん。そんながまくんを元気つけるために、かえるくんは、手紙をかいてかたつむりくんに配達を頼む。かえるくんとがまくんは、かたつむりくんが届ける手紙を四日も待ち続ける。そして喜び合うのである。中心は、がまくんとかえるくんの心の触れ合いである。ほのぼのとした独特な絵、そしてユーモラスでおっとりした語り口で、がまくんとかえるくんの交流が優しく描き出される。分かりやすく、楽しい作品である。

8 教材研究

(1) 表現上の特色

- ・書き出しの二文がこの作品の叙述を象徴しており、登場人物と場面を巧みに表現している。
- ・文章は、簡潔で一文が平均して短い。特に、大急ぎで家にかえたかえるくんが手紙を書く場面では、たたみかけるように次々と動作が短文でえがかれている。

例

かえるくんは、大いそぎで家へ帰りました。えんぴつと紙を見つけました。  
紙になにか書きました。紙をふうとうに入れました。ふうとうにこう書きました。

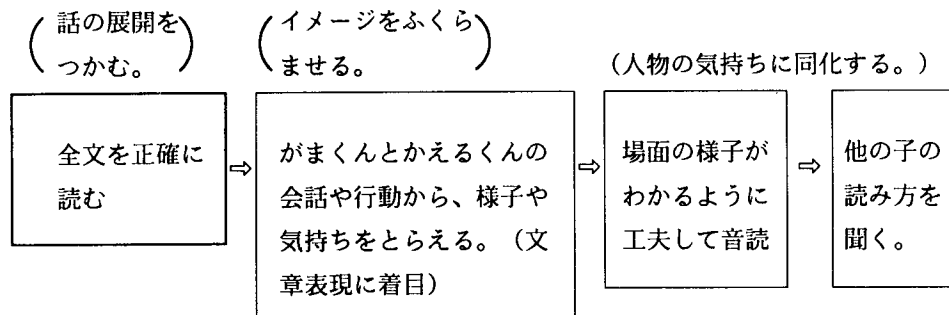
- ・会話文により、かえるくん、がまくんなど人物の人柄が表われている。
- ・同一人物の会話と会話の間に、「○○が言いました」という表現が入っている。  
このために、文章にあるリズムが生まれている。

例

「まかせてくれよ。」  
かえるくんが言いました。  
「すぐやるぜ。」

- ・全体に平易であるが、意識的に「ふしあわせ」「親愛なる」「親友」といった抽象度の高い言葉を入れている。そのため、これらの言葉が際立って印象に残り、その意味も増幅されて作品の暖かさを感じさせている。

(2) 読みの図式化



(3) 文章構成

主 題

普段は何気なく、ごく普通の友達であったかえるくんとがまくんであったが、手紙を通して、更に深くかわり合えた二人の友情。即ち、素朴な人間愛の中に見られる善意と、そこから生れる連帯感、ほのぼのとした友情の暖かさ。

五	四	三	二	一	場面
がまくんの家 の玄関の前	がまくん の家	がまくん の家	かえるくん の家	がまくんの家 の玄関の前	場所
四日たって、かたつむりくんが着く。かえるくんの友情にふれて、がまくんは、幸せな思いにみたされる。	手紙が待ちきれなくて、がまくんに全てを話してしまふかえるくん。 しあわせな気持ちになるがまくんとかえるくん。	早く手紙が着かないかと、そわそわしながらもけんめいにかまくんの気持ちをひきたてようとするかえるくんと、あきらめてなげやりな言葉を返すがまくん。	大急ぎで、がまくんへの手紙を書きかたつむりくんに頼むかえるくん。	来るあてのない手紙を待つがまくんの孤独感と、不幸せな気持ちに共感するかえるくん。	あ ら す じ
<ul style="list-style-type: none"> <li>ふたりとも (とても幸せな気持ちで)</li> <li>四日たって</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「かえるくん、どうして、きみ、ずっとまごの外をみているの。」</li> <li>「きっとくるよ。」</li> <li>親愛なる</li> <li>親友</li> <li>「ああ。」がまくんがいました。</li> <li>「とてもいいお手紙だ。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「きみ、お手紙がくるのをもうちょっとまってみたらいいと思うな。」</li> <li>あきあき</li> <li>ひよっとして</li> <li>くれるかもしれないだろう。</li> <li>かたつむりくんはまだやってきません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「まみ、お手紙がくるのをもうちょっとまってみたらいいと思うな。」</li> <li>あきあき</li> <li>ひよっとして</li> <li>くれるかもしれないだろう。</li> <li>かたつむりくんがいました。</li> <li>「すぐやるぜ。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふしあわせな気持ち</li> <li>一どもかい</li> <li>ふたりとも (かなしい気持ちで)</li> <li>すると</li> <li>しなくちゃいけないことがあるんだ。</li> <li>大いそぎで</li> <li>「まかせてくれよ。」</li> <li>かたつむりくんがいました。</li> <li>「すぐやるぜ。」</li> </ul>	重要語句・キーセンテンス



9 指導計画 (18 時間)

過程	目 標	主 な 学 習 活 動	読みの行動	評 価 方 法
第一 次とらえる (3)	1 全文を読み、感想を持つことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出漢字の正しい読み、書きを理解することができる。</li> <li>全文を読んで、話の筋のおおよそをつかみ、感想を話し合う。</li> <li>場面分けをして、かえるくんとがまくんの間柄を考える。</li> </ul>	微音読 一斉読み 群読 指名読み	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の読み書きができたか (ワークシート)</li> <li>全文を読み、感想を持つことができたか (ワークシート)</li> <li>場面分けができたか (ワークシート)</li> </ul>
第二 次 確 か め る (8)	2 場面ごとに読み、かえるくんとがまくんの気持ちや様子を読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>かえるくんの会話とがまくんの会話を確かめる。</li> <li>かえるくん読み、がまくん読み、地の文読みを分担して読む。</li> <li>手紙をもらったことのないがまくんの悲しみとそれを聞いて、心を痛めるかえるくんのやさしい気持ちを読み取る。</li> <li>ワークシートの吹き出しに、がまくん、かえるくんの気持ちを書かせる。(一の場面)</li> <li>大急ぎで家に帰って、手紙を書くかえるくんと、はりきっているかたつむりくんの様子を読み取る</li> <li>ワークシートに視写し、かえるくんの急いでいる様子を調べる。(二の場面)</li> <li>手紙を心待ちにしているかえるくんと、悲観的になっているがまくんの気持ちを読み取る。</li> <li>かえるくんの気持ち、がまくんの気持ちをワークシートの吹き出しに書く。(三の場面)</li> <li>かえるくんとがまくんの気持ちのちがいを読み取る。</li> <li>二人の会話を書いて、気持ちを考える。(三の場面)</li> <li>かえるくんから手紙のことを聞き、感激するがまくんの気持ちを読み取る。</li> <li>手紙の部分をワークシートに書き、読み合う。(四の場面)</li> <li>かえるくんとがまくんが幸せになっていく様子を読み取る。(四の場面)</li> <li>四日間の二人の様子を想像し、吹き出しに書く。</li> <li>お手紙をもらったがまくんの喜びを読む。(五の場面)</li> </ul>	一斉読み 役割読み 一斉読み 役割読み 指名読み 役割読み 一斉読み 役割読み 指名読み 役割読み 指名読み 役割読み 一斉読み 指名読み 一斉読み	<ul style="list-style-type: none"> <li>かえるくんやがまくんの気持ちや様子を読み取ることができたか 音 読 ワークシート 吹き出し 視 写 動作化 発 表</li> </ul>
第三 次 広 げ る (7)	3 工夫して発表会をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書のさし絵をもとにグループで紙芝居をつくる。</li> <li>何枚の絵に分けるか考える。</li> <li>絵ごとに工夫して会話を書く。</li> <li>グループで 練習しあう。</li> <li>紙芝居の発表会をする。(2時間)</li> </ul>	グループ 読み 役割読み	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力して紙芝居を作ることができたか (紙芝居)</li> <li>堂々と発表することができたか (音読)</li> </ul>
	4 指示語、漢字語句の正しい使い方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ことばの意味や使い方について学習する。</li> <li>「さしめすことば」を学習する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>指示語、漢字、語句の正しい使い方を理解することができたか (ワークシート)</li> </ul>
	5 アーノルドの作ったお話を楽しみながら聞くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>アーノルドの作ったお話を読み聞かせる。</li> <li>感想を発表しあう。</li> </ul>	範 読	<ul style="list-style-type: none"> <li>しっかり聞くことができたか</li> </ul>

10 本時………5/18

(1) ねらい

がまくんの悲しみとその姿を見て、心を痛めるかえるくんの様子を読み取ることができる。

(2) 展開

過程	学習活動	主な発問	指導上の留意点	読み	評価
と ら え る 確 か め る 広 げ る	1 前時までの学習を想起する。	○これまで、どんなお勉強をしてきたでしょう。	・前時までの学習を想起させ本時の学習への構えをしっかりとさせる。		
	2 本時の目あてを知る。	「めあて かえるくんとがまくんはどうしてかなしいのだろう」	・さし絵を見ながら、学習の目あてを知らせる。	一斉読み	目あてを知ることができたか
	3 本時の学習範囲を音読する。	○一の場面を読みましょう。(P4～P7; L3)	・正確に叙述を読ませるために氏名して読ませる。 ・聞き手は教科書を見て、集中して聞かせる。 ・各自、微音読させる。 ・がまくんの気持ちがわかるところに-を引く。	役割読み 微音読	音読を集中してきくことができたか
	4 二人の会話から不幸せな気持ちになるわけを読み取り、話し合う。	○がまくんが悲しそうにしていたのはなぜでしょう。	・がまくんの会話を中心にさし絵の助けをかりて、がまくんの悲しそうな様子をとらえさせる。		会話文からがまくんの気持ちを読み取ることができたか
	5 がまくんの気持ちを考えながら音読する。(動作化)	○がまくん、かえるくんの気持ちを考えながら読みましょう。	・がまくんの絵を提示し、どんな顔、どっちを向いて、どんな調子で話しているのか、動作化しながら読ませる。 (面をつけさせ、よりがまくんかえるくんの気持ちに近づける。)	役割読み	
	6 がまくん、かえるくんの気持ちを吹き出しに書き、発表する。	○がまくん、かえるくんは、心の中で何と言っているのか、吹き出しに書きましょう。 ○はっきり、みんなに聞こえるように発表しましょう。	・ワークシートの吹き出しに二人の気持ちを想像して書く。 ・二人はどんなことを考えながら腰をおろしていたのか想像させて聞かせたい。		二人の気持ちが書けたか
	7 一の場面を気持ちをこめて、音読する。	○がまくんやかえるくんの気持ちになって、一の場面を音読しましょう。	・二人の心情の違いを音読によって表現させる。	群読	気持ちをこめて音読できたか
	8 次時予告	○かえるくんは家に帰って何をするのでしょう。			

(3) 評価

がまくんの悲しみとその姿を見て、心を痛めるかえるくんの様子を読み取ることができたか。

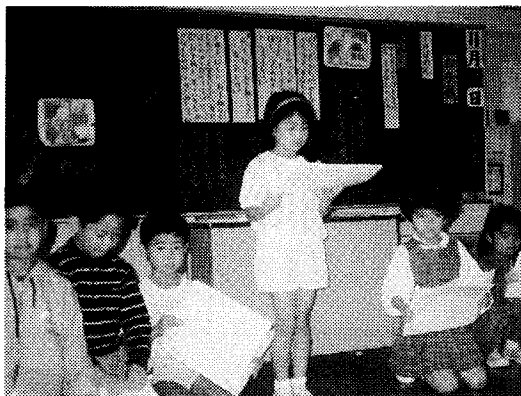
## 11 授業の反省

### (1) 授業者の反省

- 毎時の始めに音読の基礎練習をしたので、音読もよく声が出ていたと思う。
- 微音読では、がまくんの気持ちが表われているところに——を引きながら読ませたが、ほとんどの子がとらえていた。
- 「ふしあわせ」という語句の押えが不十分で、簡単な語句説明に終わってしまった。
- ワークシートのまとめは、どの子も3分以内にできて発表までやったのでよかった。
- 会話分の語尾に注目させる点で「すねている」「いじけている」という言葉が出てきたので登場人物の気持ちはよくとらえていると思うが、読みの工夫までには至らなかった。

### (2) 指導助言

- 音読中心の展開で、音読の場をたくさん与えていた。
    - 一年生の音読のねらいは「語や文としてのまとまりを考えながら音読する。」
    - 二年生の音読のねらいは「内容を考えながら音読する。」
- このねらいは、時間的な順序、事柄の順序を押え、その中で人物の様子や気持ちを読み取るということである。
- 抽象的な言葉「ふしあわせ」「かなしそう」などは、具体的にかみくだいて指導しないと、子どもにはわからない。どんなときに「ふしあわせ」を感じるのか、子どもから例を引き出していくとよい。
  - 子どもの側から「すねている」「かなしそう」「いじけている」という意見が出てきたのだから、それに合うような読みの工夫もさせたほうがよい。
  - 一センテンスでも、気持ちが表われるように一斉読みして、みんなが同じように気持ちを読み取る。それが指導内容の7（易しい読み物を進んで読むこと）に続いていく。
  - めあては、次の場面につなげなくてはいけない。場面毎に区切っためあては良くない。お話の最初から最後まで子どもたちの思考の中をしっかり展開させていかななくてはならない。想起する、つなぐということは、とても大切なこと。
  - 一の場面は、「かなしい」という気持ちに浸るところだから、みんなが「かなしい」と思うためには、授業の最後は、群読よりも役割読みのほうがよかったであろう。



「がまくん、かえるくんの気持ちを発表します。」



がまくん、かえるくん、地の文の役割り読み

## V 資料

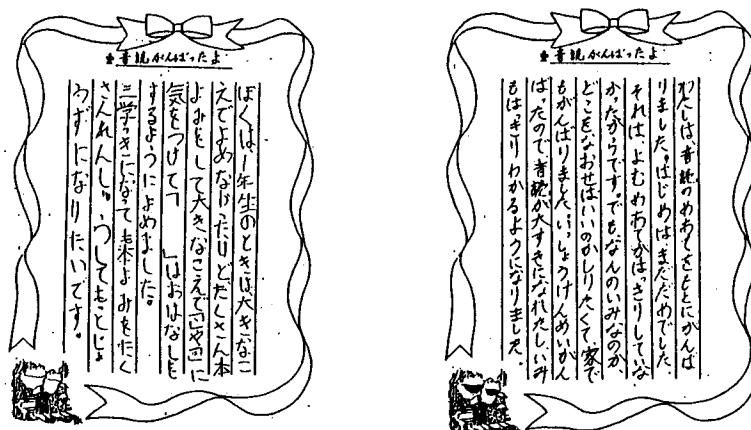
### 1 児童の変容（音読調査より 調査人数 35名）

	事 項	指導前	指導後
(1)	音読すると、お話や書いてあることがよくわかる。	21名	30名
(2)	音読がじょうずだと思う。	16名	25名
(3)	音読がすき。	30名	32名
(4)	音読するときに気をつけていること。（音読のめあてより）		
①	大きな声ではっきり読む。	23名	30名
②	「、」「。」に気をつけて読んでいる。	20名	32名
③	「 」はお話するように読んでいる。	8名	28名
④	話のなかがわかるように読んでいる。	7名	27名
⑤	正しいせいで読んでいる。	9名	31名

### 考 察

- ・音読することによって、お話や書いてあることがわかるようになってきている。
- ・音読がきらいだという児童は、固定化されているが、それでも好きと答えた児童がわずかながら増えている。
- ・音読がじょうずだという児童も増えている。しかし音読が好きと答えた児童よりも少ない。  
これは、声に出して読むのは好きだが、上手ということにまで意識されていないことを意味する。音読の仕方（口形、発音）を指導し、自信を持たせ、音読の発表会など、国語以外の場面でも声に出して読む機会を多くする必要がある。
- ・指導後に、お話や書いてあることがよくわからない児童が（5名）もいることは、まだ、個別指導の必要なことを意味していると考える。

この意識調査と「お手紙」の指導から音読は、理解を深める活動であり、さらに、読みを一層深化させるものであるということが確認できた。



〈子どもの感想から〉

## 2 音読個別化指導表

番号	音読のめあて 名前	声の 大きさ	取 速 り さ ・ 間 たの	「 」 の 工 夫	す ら す ら	こ 気 持 め ち てを	今 後 の 指 導
1	Aくん	○	○	○	○	○	つかかる。自信をもたせたい。
2	Bくん	◎	○	◎	○	○	「」の読み方が上手。
3	Cくん	○	△	○	○	○	口をもっと開ける。自信を持たせたい。
4	Dくん	△	△	△	△	△	声が小さい。たどり読み。発声練習が必要。
5	Eくん	◎	○	○	○	○	声は大きいがつっかかる。繰り返し練習させる。
6	Fくん	○	○	○	○	○	もっと口を開ける。
7	Gくん	◎	◎	◎	◎	◎	主題にせまるような読みをしている。
8	Hくん	△	○	△	◎	○	声を大きく、もっとゆっくり。
9	Iくん	◎	○	○	◎	○	もっとゆっくり。
10	Jくん	◎	◎	○	○	○	「」の読み方を工夫させたい。

### 3 音読カード

音読練習のためのカードで単元に入る前から使用させ、読む回数を増やし、音読に自信を持たせるようにした。毎日読むことによって、読める→自信がつく→意欲が出てくるという順序を踏み、読むことが好きになる。

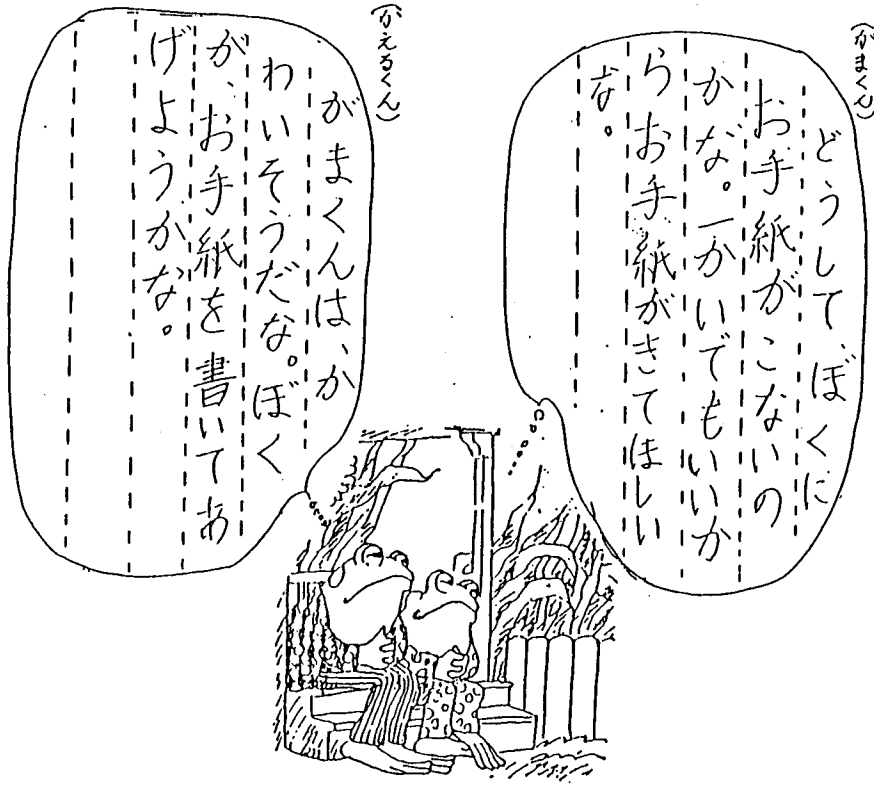
まうい名	名前						
読み方	読んだ日	ごうけい					
	読んだ回数						
大きな声でゆっくりよめました。							
「、」「。」に気を付けて読めました。							
「」は、お話するように読めました。							
話のなかがわかるように読めました。							
記入のしかた	よい◎ ふつう○ がんばろう△						
家の人のことば							

### 4 音読チェックカード

読み手は、相手意識を持って読み、聞き手も意識して聞く。そしてお互い高め合う。そのために音読チェックカードを作成して、読み方を相互評価させた。

	この読み方は何点ぐらいですか。	まちがえずに読めましたか。	りっぱなたいどで読めましたか。	読むはやさはちょうどよいですか。	声の大きさはどうでしたか。	「」の読み方はくふうしてありましたか。	「、」「。」でくぎって読めましたか。
	太郎						
次郎							
三郎							
	よい◎ ふつう ○ もうちょっと△						

5 (ワークシートより)



◎がまくんとかえるくんが心の中で思っていることを書きましよう。

5時 習 め	かえるくんとがまくんは、どうしてか なしいのだから。	音 読	①	②	③
		二人の気持ち がワークシート に書かれた			

がまくん  
どうしてぼくに  
お手紙がこないの  
かな。一かいてもいいか  
らお手紙がきてほしい  
な。

かえるくん  
がまくんは、か  
わいそうだな。ぼく  
が、お手紙を書いてあ  
げようかな。

かえるくん、おれいのお手紙を書いてみましょう。

かえるくんへ

このまえのお手紙とっても  
ありがたう。こんどはぼくが  
おれいのお手紙をおくたよ。  
こんども、ぼくに、お手紙をくれるかた  
このお手紙はおれいのお手紙だけ  
と、こんどくれるお手紙は、どんなお  
紙なのかな。たのしみだね。こんども  
お手紙をかいね。よろしくね。

がまがえるより

かえるくんへ

かえるくん、きみ、やさしい  
ね。ぼく、い、お手紙を、く  
て、ありがたう。や、ぼく、の、一、ばん、の  
親友は、かえるくん。た、か、え、る、く  
ん。か、お、手、紙、を、ぼ、く、に、だ、す、と、は、思  
わ、な、か、た、よ。ぼ、く、は、か、え、る、く、ん、に  
か、ん、し、や、し、て、ま、す。ぼ、く、は、か、え、る、く  
ん、が、お、れ、い、な、ら、う、て、あ、る、こ、と、を  
と、て、も、一、つ、れ、し、く、思、い、ま、す。

## VI まとめと今後の課題

### 検証授業の成果

- 毎時の初めに音読の基礎練習をしたので、口形がよくなり、音量も豊かになった。
- 児童は、声に出すことや声に表わすことへの抵抗感が少なくなり音読・朗読の楽しさを味わうようになった。
- 登場人物の心の動きや、場面の移り変わりをいかに読み声に表わすかを考えさせたことが、より深い理解を生み出すことにもつながった。
- 他の人の読みも関心を持って聞き、よい読み方を見つけ、お互い影響しあって、音読を高めようとする雰囲気が出てきた。
- 動作化、視写、挿絵活用など多様な活動を取り入れたので、授業が活性化し、子どもたちは、音読することの楽しさを再発見し、張りのある生き生きとした声が教室いっぱいに響きわたるようになった。

### 今後の課題

- 効果的で楽しい音読基礎技能の学習方法
- 音読・朗読の日常化、習慣化を推進すること
- 子どもの読み声をしっかり聞きとる力と教師自身の読み声を磨くこと。
- 読み深め、イメージを広げるために重要語句に着目する教材分析の方法。

### 終わりに

今まで、ただなんとなく指導していた音読に、今回じっくり取り組むことができた。そして、研究していくうちに、音読の意義・効果がわかり、それを効果的に取り入れることにより、子どもの変容をみることができた。また、自分自身を省みる良い機会となった。

“教師がやる気を出し取りくめば、子どもが変わる”ということを中心にきざみ本研究をこれからの教壇実践に活用したい。

研究期間中、県立センターの諸喜田先生、学校教育課の嘉手刈先生、志真志小の島袋先生を始め、諸先生方から多面にわたり御指導と御助言を頂きました。心から感謝申し上げます。

### (主な引用・参考文献)

文部省	「小学校学習指導要領」	ぎょうせい	1991年
	「学習指導書国語」 2年	光村図書	1992年
石田佐久間	「音読・朗読・黙読」	東京書籍	1990年
蟹沢幸治	「音読・朗読の指導」	明治図書	1988年
藤原宏・岩崎保	「音読・朗読・暗唱を 活用する指導」	明治図書	1992年
坂田小研究同人	「音読のしおり」		1988年
全国国語教育実践研究会	「実践国語研究」(NO,110)	明治図書	1991年
南原小研究同人	「南原小学校研究紀要」		1991年
名城律子	「豊かな読みの力を育てる学習指導の工夫」		